

法政就業力通信

～今月のさんぽ道～

法政大学

産学連携 3D 教育プロジェクト
<http://3dep.hosei.ac.jp/>産学連携 **3D** 教育プロジェクト

仕事への取組姿勢を教える

教授 藤村博之（ふじむら ひろゆき） プロジェクトリーダー

メンバーシップ型の雇用が前提

先日、製造業のある現場管理職から次のように言われました。

「先生、最近の新入社員って、どうしてあんなに理屈っぽいんでしょうね。『これが君の仕事だから、よろしくね。』とって指示すると、『どうしてこの仕事をしなければならないんですか？仕事の意味は何ですか？』と質問ばかりするんですよ。質問してはいけないとは言いません。でも、仕事を指示されたら、まずは『はい、わかりました。』と答えるのが普通じゃないでしょうか。仕事のことがわからないのに、いっぱしの口をきく新入社員を見ると、人事部はいったい何を基準に採用してるんだと疑問に思ってしまう。」

大半の日本企業は、その企業のメンバーになることを前提に新卒者を採用しています。特定の仕事をしてもらうために、新卒者を正社員として雇うことはほとんどありません。「わが社のメンバーになってください。具体的にどのような仕事を担当するかは、あなたの適性を見ながら決めていきましょう。」良きメンバーになることが第一に期待されているため、採用基準として「一緒に働いてみたいと思える人」が上位に上がってくるのです。

キャリア教育に不足している部分

企業の新卒採用がメンバーシップ型ですから、学生に対して職業に関する情報を提供する際、その点を考慮して行う必要があります。各大学は、ここ10数年「キャリア教育」と称して、働くことに関する様々な情報を提供してきました。卒業生や企業の人事担当者を大学に招いて、業界や会社の状況、具体的な仕事などについて話をしてもらったり、自己分析の方法を教えたり、適性検査なども実施してきました。

しかし、企業のメンバーになる上で最も必要とされることは、必ずしも強調されてこなかったように思います。それは「任された仕事は選り好みせず真摯に取り組む」という姿勢です。どんなに企業研究や仕事研究をしても、実際に働いてみなければ企業や仕事の内実はわかりません。働く前に思い描いていたことと働くようになって経験することには差があるのが当然です。「理想と現実の間には差があるから、それをわかっておけよ！」という伝え方をもっとする必要があると思います。

仕事への取組姿勢を伝える

企業のメンバーとして働き始めると、いろいろな仕事を担当することになります。場合によっては、自分がやりたくないと思っている仕事を命じられることもあります。でも、そこで拒否しては良いメンバーにはなれません。自分に割り振られた仕事は、自分に向いていると思って取り組むといいぞ。上司は君のことをちゃんと見て判断しているのだから—どんな仕事でも前向きに取り組むことの重要性をもっと強調するべきだと思います。

学生たちの職業生活は45年続きます。45年間を生き抜いていく基礎体力をつけるのが大学教育です。仕事に対する取組姿勢を教えることもだいいじな基礎体力づくりだと思います。



略歴

84年名古屋大学大学院卒
京都大学博士(経済学)。

84～89年京都大学経済研究所
助手、90～97年滋賀大学経済
学部助教授・教授。

97年～03年法政大学経営学部
教授、04年～IM研究科教授。

e-mail:

fhcdc@hosei.ac.jp

研究室は新入口坂校舎4F



略歴 法政大学大学院経営学研究所キャリアデザイン学専攻(修士)卒業後、法政大学大学院政策創造研究科博士後期課程に進学。
2011年3月、同博士課程中退。

インターンシップにも変化が・・・

特任教員 白井 章詞 (しらい しょうじ)

学生の就職活動が12月解禁となり、今年度で3年目を迎えようとしています。安倍首相は、経団連などに対して、さらに後ろ倒しするように求めており、就職活動生の混乱は続きそうです。そうした就職活動の繰り下げ現象は、インターンシップの在り方にも変化を生じさせています。つまり、これまでは3年生の夏に囲い込んだ、あるいは接点をもった学生に対して、秋以降、積極的にアプローチをかけていました。ところが、説明会に加え採用試験そのものも後ろ倒しになると、企業は、これまで以上に学生をつなぎとめておかなければならなくなります。最近では、秋から冬頃に研修会や事後報告会と称して、学生を再度集めなおすインターンシッププログラムが目立つようになってきました。こうしたプログラムが、学生の学びやキャリア形成にどのような影響を及ぼすのか、注意深く見守っていきたいと思っています。



略歴 70年度応義塾大学経済学部卒。
70~06年伊藤忠商事(株)勤務、06~11年帝京大学と法政大学職員。
11年~法政大学教員

「働くこと」とは？

特任教員 有田 五郎 (ありた ごろう)

ある研究会で「働くこと」を題材に意見交換を行った。そして、「(自分に)出来るものを明確化して、皆の見える価値にすること」「課題に向き合うことで、先が見えてくる」とのまとめを得た。

一方、若者の風潮として、「生きることよりも、結果に関心がある点(損得・勝ち組と負け組)」「大人の話聞く機会が不足している点(価値観の違いに触れない・儲けているか有名かで人を判断する)」などが指摘された。担当授業において、「自分を知る」「現場を知る」を目指してのグループワークやDVD学習に取り組んでいるが、もう一度原点を見直す良い機会となった。



略歴: 日米ハイテク企業での営業・人事を経て人事コンサルタントとして独立。キャリアカウンセラー資格取得後は多くの大学でキャリア論の講師を務める。

アセッサーの勉強会を開催します

特任教員 鈴木 美伸 (すずき よしのぶ)

今春完成した我々のアセスメント・ツールの大きな特長は、ビジネスゲームを用いて筆記試験では測れないリアルな行動力・コミュニケーション力を観察評価する点です。これまでの開発段階では、その評価者(アセッサー)は業者の方に委託する形でしたが、本年度からは大学内部での運用が可能になるように、アセッサーの育成プログラムも開催しました。7月29日(月)の午後に、半日で学習できる勉強会を開催致しますので、ご関心のある方はぜひ、こちらまでお問い合わせ下さい。

実際のビジネスゲームの中からチェックポイントを選んで教材ビデオに仕上げました。このビデオを見ながら、評価のコツをつかめるようにしています。大学教職員の方々の新たなキャリアになればとも思っています。(キャリア・カウンセラー有資格者の方には継続学習として申請ができます。)

◆ 8/5 にシンポジウムを開催します

産学連携 3D プロジェクトでは、企業・大学関係者のみなさまへ向けて8/5(月)にシンポジウムを開催いたします。従来の教員による学生の教育・指導に産業界の知見やニーズを反映した教育手法を組み合わせることによって、4年間の教育を「立体的に」展開する本学の取組みをご理解いただき、本学のノウハウを大学や企業の人材育成に有効活用していただきたいと思います。みなさまのご参加をお待ちしております。

日時: 2013年8月5日(月) 13:00~16:30 会場: 法政大学 市ヶ谷キャンパス ボアソナード・タワー26F スカイホール (入場自由・参加費無料)

- ◆ **編集後記** : 先日、仕事の関係で立命館大学に行ってきました。少し時間があつたので、すぐそばの龍安寺を拝観しました。龍安寺に行ったのは修学旅行以来です。当時は「なんだ石だけじゃん」と思っただけでしたが、あの有名な石庭と蹲(つくばい)には深い意味が込められています。完璧数の15に見た目ではひとつ足りない14の石と「吾唯足知」と刻まれたつくばいは自分の欠点を知り、試練に立ち向かう力を身につけ、常に満足する心を忘れてはならないという禅の教えだそうです。就職活動で疲れた心を癒し、次の活力を得るためにもぜひ訪れてみてはいかがでしょうか。(ただし、観光客がいっぱい落ちて見ている感じではありませんが・・・) << 事務局: 平山 >>

法政大学 産学連携 3D 教育プロジェクト (事務局: 学務部教育支援課)

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL: 03-3264-9520 WEB: <http://3dep.hosei.ac.jp/>

産学連携 **3D** 教育プロジェクト